

令和5年度 高等学校入学者選抜審議会 第3回専門委員会 記録

令和6年3月25日(月) 14:00~16:00
 県庁9階 第一会議室(オンライン会議)

＜審議会専門委員＞

熊谷 龍一委員、平吹 淳委員、小野 ゆかり委員、吉田 尚美委員、河本 和文委員、茂木 悟委員、
 佐々木 久晴委員、中山 治彦委員 (欠席：なし)

＜事務局＞

遠藤 秀樹 参事兼高校教育課長、中村 淳 仙台市教育局学校教育課高校教育課主幹

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委員の紹介)
高校教育課長	(開会あいさつ)
事務局	(事務局関係出席者紹介)
	(委員長 司会進行開始)
委員長	本日はオンライン会議のため、質疑等うまくいかない点もあるかと思うが、よろしく願います。では、次第に従って進める。まず、「審議1 高校入試におけるWeb出願について」、事務局から説明願う。適宜区切りながら説明願う。なお、質疑については、その都度時間を取る。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。前回の検討では、委員それぞれの立場から、現在の出願手続きで負担感のある部分などについて御意見をいただいた。それらを踏まえ、Web出願システムの導入目的や、求められる機能等を、事務局で整理したということである。事務局の説明について、御質問や御意見等はあるか。
	(意見なし)
委員長	では、私から質問する。調査書のデジタル送信にはセキュリティ上の懸念があるとのことだが、この点についてもう少し具体的に、「こういうところが一番のネックになっている」等の情報があれば共有いただきたい。
事務局	調査書の電子送信について一番のネックになっているのは、宮城県の教育情報ネットワーク運用管理要領では、調査書のような、非常に秘匿性の高い個人情報を含むものについては、校務系ネットワークの外に出すことはできないとしている点である。さらに、宮城県の情報セキュリティ関連の例規の他に、調査書を送信する中学校の設置者である市町村でも、それぞれに情報セキュリティ関連の定めがあると考えられる。そのような状況で、調査書をデジタルでやり取りできるような条件を整えていくことは、かなり難しいと考えている。
委員長	他の委員から御意見、御質問いかがか。
	(意見なし)
委員長	では、2ページの2に進む。事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。以上、本県で導入を目指すウェブ出願システムのイメージが示された。資料3ページの(2)には、前回話題となったオンライン手続き上の懸念が示されているが、これらを踏まえての叩き台が、(3)の出願フローである。2ページにある現行の出願フローと見比べながら、意見をいただきたい。直筆や押印のない出願なので、真正性の確保のため中学校の確認を要する出願フローとなっていることや、調査書をどのように提出するのかなどについて、意見を伺いたい。質問

	や感想でも結構である。
小野委員	わかりやすい説明に感謝する。私立高校では、すでにこのようなシステムでやっているが、今年度も特に混乱はなかった。公立高校については、願書の書き間違いには訂正印を押す、という作業が今年度からなくなった。訂正の二重線が多くなった生徒もいるが、手続きとしては非常にやりやすかった。ただ、手書きの場合には、高校名、漢字を間違ったり、自分の住所を間違ったり、意外なところで間違ってしまう生徒がいる。パソコンでの入力を行う授業はあるものの、願書の入力間違いを中学校側で確認することは必要だろうと考えている。
委員長	発言感謝する。この点について、同じく中学校の委員である吉田委員、御意見いかがか。
吉田委員	子供たちだけではなく、保護者が間違えることもある。説明の中にあつたように、高校名や住所等の情報が、プルダウンリストのような形で選択できるようにすれば、入力ミスは少なくなるのではないか。 また、中学校の確認のタイミングと出願するタイミングについて、本人、保護者の入力後、中学校の確認を経て高校への出願となるので、その期間の設定の仕方も実はとても重要なのではないかと感じている。
委員長	発言感謝する。送信する中学校側の懸念等をいただいた。では、出願情報を受け取る側の高校の立場で、何か質問や懸念事項等あればお願いします。
茂木委員	資料4ページの④、⑤について、これは先ほど中学校側の委員からも話があつた、中学校における確認場面である。中学校の教員が生徒に対して、基礎情報に誤りがないかや、志願校や志願学科に変更がないかということ、画面上で生徒と一緒に確認するのか、それともプリントアウトできるような一枚物のシート等で確認するのか。画面上だとすれば、どの場所で教員と生徒が確認をするのか。極めて個人的な情報を、オープンな場所で確認するのか、場所を確保するとすれば、中学校の校舎内のどこで確認するのか。さらに、確認を行う時間帯は授業時間以外になると思うが、放課後の業務はどうなるのか。このように、検討が必要な部分が結構あるのではないかと思う。中学校側の教員としては、事前に確認するためにはプリントアウトされたシートでのチェックとなるだろう。業務が増えてしまうので、これは導入目的の反対方向に行ってしまうかもしれないが、秘匿性のあるものを個人面談で確認しなければならぬとなれば、やはり事前にプリントアウトできるとよいと思う。そうすると、職員室にあるパソコンから、その情報がある場所にアクセスできるのかどうかというような問題も出てくる。 中学校側としては、間違いのない情報が出願情報として送信されることを確認しておきたいと思うので、その確認の手段、具体的な場所や時間等、そういうところも想定してもらおうとよいのではないか。
委員長	発言感謝する。この点について、事務局、若しくは中学校の先生になるかもしれないが、何か考えておくべきことなどはあるだろうか。
吉田委員	私も、期間の設定が必要だとお話ししたところだが、確認にかなり時間がかかってしまうのではないかという懸念があつたため、そのような話をした。先ほど意見があつたように、学校で確認する際には、一人ではなく複数の目で、二段階、三段階でチェックする体制をつくり出願に向かう。Web出願になり画面上で確認すると、それはなかなか難しいのではないかと思うので、やはり紙媒体で一旦確認をすることになるだろうか。これは手間ではあるが、出願前の子供たちへの指導はやはり必要だろうと思いつつ聞いていた。
委員長	発言感謝する。他にいかがか。
小野委員	私立高校にはすでにこのようなシステムが導入されているが、何か混乱はないのだろうか。そういった話は特に聞いたことはないが、私立高校では実際どのような状況なのだろう。 また、氏名の漢字が外字である子供もおり、卒業証書や調査書の作成にあたり、外字を使っている状況がある。この点についてはどうなるのかという心配もある。
委員長	発言感謝する。私立高校の件について、河本委員、いかがか。
河本委員	実際にWeb出願を実施していると、毎年いくつかの確認作業が出てくる。この4

	<p>ページ④の受験番号の採番に関わるところでは、出願と同時に自動的に受験番号が割り振られる形にしているの、受験生は一通り手続きが終わった後、すぐ出願票が出力できるようになっている。その出力したものに、写真を登録している場合は写真が自動的に印刷されるし、写真を登録していない場合は、写真を貼り付けて志願票が完成する。志願者はその出願票を中学校に提出し、中学校は出願票をもとに調査書の発行手続きを行う。中学校では、その出願表に正しい本人の写真が貼付されているか、記載事項に間違いがないかなど、そこで確認することができる。その段階で修正点があれば、出願期間内に修正は可能である。出願票に誤りが無いことの確認が取れてから、最終的に受験料が振り込まれるという形になるの、そこまでの流れについて、特に大きな混乱はない。</p> <p>私立高校の場合、出願者と学校との一対一のやり取りになるが、公立高校に Web 出願を導入した際には、おそらく一つのシステムで多くの公立高校から選択することになる。県のシステムを挟む形になると、修正のやり取り等で手違いが起きることがあるかもしれない。私立高校では選択する学校を間違えることはまずないのだが、東北学院榴ヶ岡高校は東北学院高校という似た名前の高校があるため、東北学院高校に出願する予定だったのに、手続きは榴ヶ岡高校でしてしまい、出願取り消しとなるような状況が毎年 1、2 件ある。その際にはすでにお金が振り込まれているので、返金作業等は大変煩雑になる。これが、多くの学校と 1 人の出願者とのやりとりになった時に、スムーズに行くのかどうかは少し懸念するところだ。</p> <p>県で統一したシステムで行う場合、後々、細かいやり取りを、県を通して行うのか、あるいは本人と出願した学校とで直接やり取りするのかということ、綿密に期間を設定しないと作業がなかなか進まないという懸念もあるかと思う。</p> <p>写真の登録については、Web 出願を導入した年は、写真をアップロードすることが、保護者の方も苦手なようで、プリントアウトした写真を貼り付けた出願票が非常に多かったが、この頃は保護者の方々も慣れてきたのか、ほとんどがアップロードした写真になっており、時代の流れと共に、非常にスムーズになってきていると感じる。</p> <p>また、Web 環境が整わない家庭や、入力方法の確認が取りづらい家庭など、様々あるかと思うが、スマートフォンでの出願も可能になっているので、家庭にパソコンがなくても、スマートフォンでほとんどの家庭が対応している。Web 出願を始めた年には、学校にお越しいただき入力いただいた例も実際にあったが、現在は、そういう対応はほとんどない。</p> <p>最後に、選抜手数料の振り込みについて、本校でも、クレジットカードやコンビニ払い等、複数から選択できるようにしているが、その方法により、手数料が変わってくる。本校では入学金等の振り込みにもこのシステムを利用しているので、扱う金額が大きくなると、支払いの媒体によっては、手数料が大きく異なってしまう。家庭の方には、「こちらの方が手数料は高いですよ」というように話しているものの、後々、手数料に対する不満の声も聞かれる。急遽の出願取り消しや、出願変更のような場合も含めて、一度お金が動いてしまうと、その後のやり取りが難しい場合もあり、この点はまだ十分に解決できていない。</p>
委員長	説明感謝する。その他、御意見、御質問等いかがか。
佐々木委員	資料 3 ページの Web システムのイメージ、出願フロー図について確認したい。先ほど、中学校が入って確認をして…との話があったが、私立高校では、志願者が入力したものを一度出力するなどして、中学校の確認を受けてから、志願者が直接、高校に出願していると思う。このフロー図だと、あくまでも中学校が確認した後、中学校がまとめて高校に送信するという形になっているということによいか。その点、どのように考えているか、再度確認したい。
委員長 事務局	発言感謝する。今の点について、事務局が想定している流れはどのようなものか。検討中ではあるが、現時点では、中学校から出願情報がまとめて送信されるような形を想定している。中学校でプリントアウトなどもできるようにして志願者・志願校の情報を確認し、校長先生が承認をする段階を経て、中学校からまとめて高等学校に送信するというイメージである。

委員長	説明感謝する。佐々木委員、よろしいか。
佐々木委員	そうすると、Web 上での出願ではあるが、現在の出願と同様、中学校からまとめて出願されるということであれば、受験番号等も中学校ごとに連続して採番するというような形になるのかなと思った。そのあたりについてどうなるのか疑問に思い、質問した次第である。説明に感謝する。
事務局	事務局からもう 1 点、お話ししたい。先程質問のあった外字についてである。これはシステム会社にもよるのだが、外字を含む個人名については、JIS 水準の中で変換される文字に置き換え、その置き換えた文字についてはチェックリストをつけ、入学後、正しい漢字を用いる必要がある場合に、「○文字目に外字あり」のようにチェック機能が働くようにして、置き換えられている文字に注意を払えるようにする、といった方法があった。システムを作る上で、外字を扱えるようにするかどうかについては、出願、合格発表の段階では、正式な漢字を用いることを必ずしも求めないとするならば、外字については使わなくても大丈夫ではないかと考えている。 また、中学校による志願者情報の確認をどの程度まで行うかについて、他県を視察した際にも、やはり生徒や保護者が住所や学校名を間違えてしまうことはあり、小さな誤りであったとしても、点検する中学校の負担が大きいという話を伺っている。福井県で伺った話だと、志願者全員に付与している ID に、氏名や住所等の中学校で管理している個人情報あらかじめ設定し、出願の際に ID を入力すれば、自分の住所、氏名等が自動で反映されるシステムも設計が可能とのことであった。出願に先立って、志願者情報登録さえしっかり行っていれば、出願手続き自体は、プルダウン式の選択と選抜手数料の振込だけで、2～3分もあれば終了するそうである。ただし、その志願者情報が本当に正しいものなのかを確認する「第3の目」というところで、中学校の協力がどうしても必要になってくる。この点については、また具体的なシステム構築の際に、意見等頂戴してまいりたい。
委員長	説明感謝する。その他、意見等いかがか。
河本委員	受験期になると出願システムが非常に混み合い、システムにつながりにくい状況になるということは、当然想定される。志願者の氏名や住所等の基本的な情報を入力する時期が出願の時期と重なってしまうと、非常に混雑し、誤りも見つかりにくい状況になる。そこで本校では、他の私立高校も同様だが、学校説明会やオープンキャンパスの申込みも同じシステムを利用して行い、その時点で一度システムに登録いただいている。そこで個人の ID は設定されるため、入試への出願の際には、その ID を用いてすぐに手続きに入ることができる。こういった使い方や設定も導入の方向で進めていく方が、出願時期の混雑等に対応できるのではないか。
委員長	発言感謝する。他にいかがか。
茂木委員	⑦の出願受理について、中学校からの出願の数と、高校で受理した数は一致するはずだが、これが本当に一致しているかどうかの確認をどのように行うか、現時点で考えている手段を伺いたい。 次に⑧の受験番号の採番について、受験番号を付与するまである程度の期間が必要だということであったが、受験番号は受付期間内には付与するということがよろしいか。フロー図の⑧から⑨への矢印を見ると、中学校を経由していない。自校の生徒の受験番号が何番なのか、生徒個人に聞かないと中学校側は知りえない、知った段階ではすでに受付期間が終わっている、ということになると、ニュースで報じられた他県の例もあるが、実は出願がされていないということが受付後に発覚する場合もあるかもしれない。そういった懸念から、受験番号の採番にどのくらいの時間が必要なのか、受付期間はどれくらいを想定しているのかを伺いたい。 要は、⑧から⑨の矢印の中で（受験番号採番から、受験票発行まで）、中学校側でも出願受理の数や生徒の受験番号が分かるような形になるとありがたい。ただ、私立高校ではそういう流れにはしていないと思うので、ここは考えどころかと思う。
委員長	質問のあった 2 点について、現時点で事務局として想定はあるか。
事務局	まず 1 点目について、出願した数と受理した数が一致しているかどうかをどのように確認するのかという点については、まだ検討していなかった。ただ、今の茂木委員の意見を伺い、そういった機能も必要になるということは確認できたので、シ

	<p>ステム構築の際にはそういった点も考慮し、出願と受理に間違いが起きないように、気をつけていきたいと考えている。</p> <p>2点目の受験番号の採番についてだが、3ページでお示したフロー図はあくまで叩き台であり、本日いただいた意見等も踏まえて精査して参りたい。やはり、中学校側でも生徒の受験番号を把握し、きちんと出願がなされたかを確認することは必要なプロセスかと考えるので、そういった機能も持たせられるような設計をしていきたい。また、受験番号の採番の期間については、中学校ごとの出願にして、同じ中学校は連番になるように、そのような配慮をするのかどうか、また、座席配置の配慮のために、受験番号の調整ができるようにするのかどうか、そういったところも含めて考え、採番期間、ひいては出願期間を設定していかなければならないと、現時点では考えている。</p>
委員長	説明感謝する。他にいかがか。
河本委員	<p>私立高校でも、Web 出願を導入するときに、中学校側から、出願している状況をタイムリーに把握したいという要望がやはりあった。現在のところ、出願期間が始まったら、中学校校長に ID とパスワードを与え、システムに入っただき、毎日タイムリーに確認できるようにしている。そして最終的には、受理した側から出願者の一覧を示す形にしているので、出願と受理とが一致するかという中学校側の確認は取れている状況である。システムの組み方によって、対応可能なものとする。</p> <p>受験番号の採番についても、各学校によって様々かとは思いますが、事前に受験番号の振り方をシステム上に設定すれば、その通りに設定される形になるので、出願と同時に受験番号が振番されるようにすることは可能だろう。ただし、先ほどお話ししたように、出願する学校を間違えてしまったというような場合、出願取り消しになるのだが、システムの方は処理が進んでいるため、取り消しになった受験番号については欠番扱いにする、という処理を行っている。</p>
委員長	<p>説明に感謝する。ここまで、非常に多くの御意見をいただいた。今後も参考にさせていただきます。続く、5ページの3について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>Web 出願の導入は非常に大きな変革として迎えられることになるだろう。もう皆さんお聞きになっているかと思うが、他県では導入初年度にトラブルもあったということである。このシステムをすべての志願者が使用できるようにするための準備は非常に重要なので、この環境整備や周知スケジュール、またそれ以外の部分についても、ぜひ意見願う。</p>
小野委員	<p>(2) 周知のスケジュールについて、4月、10月に動画を提供しての説明とある。最近の子どもたちは、動画から情報を得ることが非常に得意であるので、多くの中学校で10月末くらいに開催する進路説明会で、この動画を流しながら説明をする形を取れば、だいぶ浸透していくのではないかと思う。その前に、中学校の先生方に対して、県から動画を使って説明いただき、それを受けて、中学校から保護者、中学生に向けて動画を流しながら説明という形をとると、定着するのではないかと思うので、よろしく願いたい。</p>
委員長	意見感謝する。他にいかがか。
茂木委員	<p>(2) の周知スケジュールで、4月と10月の間には現状何も予定されていないが、例えば7月上旬には、地区別高校説明会を行っている地区がある。それをうまく使うことはできないか。今行っていない地区でも、Web 出願の周知となれば実施するかもしれないので、早めに計画しておくことよいか。保護者にとっても三年生にとっても非常に関心の高いことなので、夏休み前、オープンキャンパス前の時期である7月という時期を使わない手はないと考える。</p> <p>また、11月の出願体験については、生徒たちは一人一台端末を使って自宅で行うという形になるのだろうか。恐らく、初めて経験することだと思うので、多くの質問が出てくると考えられる。その場合、このサポートデスクが、そのような時間帯に対応できるのだろうか。また、サポートデスクへの電話を敬遠して、多くの生徒が中学校に問合せをするだろう。あるいは放課後に中学校の個々の教員が対応して質問</p>

	<p>に答えられるかという懸念もある。時間もかなり取られるだろう。</p> <p>さらに、これは業者が担う部分になるのだろうが、出願体験後に、体験をしてみたい生徒・保護者の声を集約するといったことは考えておられるか。もし計画されていれば、教えていただきたい。</p>
委員長	<p>発言感謝する。最後に質問があった件について、事務局で検討していることはあるか。</p>
事務局	<p>出願体験後、出願者や保護者の声を集める機会については、現段階では想定していなかったが、そのような手立てもあるということに気付かせていただいた。今後の検討材料に加えていきたい。質問に感謝する。</p>
委員長	<p>システムそのものも大事だが、周知の仕方やサポート等も、同じぐらい大事だということが非常によくわかった。その他、意見等いかがか。</p>
吉田委員	<p>各市町村によって異なると思うが、(1)イの ICT 機器について、一人一台端末は生徒に行き渡っているものの、契約内容によってインターネットの使用制限等があり、Web 出願に対応できない端末もあるのではないかと思います。その点についても、配慮、検討が必要かと考える。</p>
委員長	<p>発言感謝する。今の件について、事務局で把握している情報はありますか。</p>
事務局	<p>把握していなかった。今後、情報収集し、検討事項に加えたい。貴重な情報をいただき感謝する。</p>
河本委員	<p>公立高校の Web 出願導入について、生徒・保護者にとって初めての体験とお考えかもしれないが、実際のところは、おそらく個人 ID 登録などは、夏の段階ですでに私立高校でスタートしている。個人の登録に関しては、形式的にあまり異なりすぎると参考にはならないが、私立高校の方で体験済みである。そして11月末頃からは、私立高校の出願が始まり、Web 上の出願手続きも体験していることになる。</p> <p>公立高校でどのようなシステムを組むのかは分からないが、私立高校で現在行われている出願方法と、ほぼ同じようなつくりにしていただくと、混乱は少なくなるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>発言感謝する。私立高校で採用しているシステム等は、ぜひ公立でのシステム構築の参考にしていきたい。</p> <p>様々な意見をいただいたことに感謝する。Web 出願システムのイメージが、かなり具体的になってきたと思うが、セキュリティの問題や、受験料の電子納付等、詳細を詰めていかなければならない部分もまだある。本日頂いた意見や感想を踏まえ、事務局で引き続き今後の検討の準備をお願いしたい。</p> <p>では審議2に入る。6ページ、調査書の記載事項について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>前回の専門委員会と第2回入選審で出された意見を踏まえ、事務局から今後の検討の方向性が示された。この2つの観点について検討を進めていくということについて、質問、意見等はあるか。</p> <p>(質問・意見なし)</p> <p>よろしいか。では、この観点に沿って検討を進めていく。続いて、8ページの3について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明感謝する。この欠席の状況欄の要否については、これまで様々な意見をいただいた。これまでの検討を踏まえて、事務局から欠席の状況欄に変更を加えた調査書の様式例が提示された。</p> <p>欠席の状況という情報自体は選抜資料とはしていないものの、生徒の生活状況を知るための情報として活用されているとの話もあり、非常に悩ましい。この事務局から提示されたそれぞれのパターンについて、意見をいただきたい。</p>
河本委員	<p>欠席欄について変更を加える趣旨については私としては賛成なのだが、実際、私立高校の立場から申し上げると、私立高校と公立高校の調査書様式が異なると、中学校の負担が増えるということもあり、私立高校でも公立の様式を使っている。私立高校の中には、推薦入試を実施しており、欠席日数が少ないことを出願の要件にしている学校も存在するので、その数字が何らかの形でわからないと、入試の方法</p>

	<p>や出願要件の変更を私立高校に迫らなければいけないということが生じる。</p> <p>公立高校としては、正しい趣旨かと思うのだが、実際、この調査書様式を用いている私立高校ではどのような対応ができるのか、変更が可能なのか、その点も確認していただく必要があるだろう。私立高校が学校ごとに独自の調査書様式を作り出すと、中学校での作業が大変になるということは、理解いただきたい。</p>
茂木委員	<p>事務局のご苦勞に感謝する。現状の様式と、10ページのハにある欠席の状況欄を学籍情報の場所に移動したものを比較すると、あまり変わらないのではないかといいところはある。ただ、選抜の資料ではないということを明確にするという意味では、ここに移動するだけでも作り手側としては違うのかなというふうにする。</p> <p>やはり私も、現時点においては欠席日数が可否の判定材料ではないにしても、その生徒の状況を把握する場面においては、決してマイナスではなく、プラスの活用にもなると思っている。要するに、3年間の欠席状況の変化を見取るというような、プラスの意味の活用もできるので、ハのような形もあり得る。</p>
委員長	<p>意見感謝する。その他いかがか。</p> <p>事務局としては、この件について今回で決定しなければいけないと考えているのか。それとも、もう少し継続して審議する時間はあるか。</p>
事務局	<p>今日決定するという意図はない。提示したパターンについて、それぞれのメリットやデメリットなど、広く意見をいただければと考えていた。</p>
委員長	<p>承知した。他に意見いかがか。</p>
佐々木委員	<p>このような様式例をお考えいただき感謝する。欠席の状況は可否判定には関わらないということで、10ページのハの案のように、学籍情報の欄に移し、選抜資料として用いないということを示す意図はわかるのだが、中学校、受験生、保護者の立場からすれば、いくら説明したとしても、やはりこういう欠席情報が高校に行くのだな、という印象はあるのではないかと。そういったところが、どのように受け取られるだろうか。調査書というものは、様式の上に「入学者選抜用」と書かれているように、あくまでも選抜に関わる情報を中学校から高校にあげていくというものである。欠席の状況は、確かにその受験生の生活状況を見ることができる資料ではあるが、選抜には用いられないということであれば、削除することも考えられるのではないかと私個人としては思っている。</p>
委員長	<p>意見感謝する。確かに、今の時点でどれかに決めるということは難しいと思うので、多くの意見をいただきたい。他にいかがか。</p>
小野委員	<p>非常に難しい。高校側で、本当に選抜に必要な情報だけをほしいというのであれば、他にも不要な欄があるのかもしれないし、欠席欄もいらないだろうと個人的には思っている。この春休み中に、近隣の高校とは引継ぎを行い、欠席状況について共有するし、受験の段階で特に欠席が多い生徒については副申書を付けているので、そこで情報共有はできるのではないかと。また、10月末の進路説明会の時には、高校に提出する調査書の内容を生徒と保護者には提示している。</p> <p>私としては、欠席の状況欄は必要ではない気がしているのだが、高校側で必要だということであれば、書いた方がいいのだろうと現時点では思っている。</p>
委員長	<p>その他、意見いかがか。よろしいか。それでは、いただいた意見を整理し、事務局の方で検討をさらに進めていただければと思う。</p> <p>それでは11ページの4に進む。事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>第2回入選審で、調査書の使われ方についての様々な思い込みや憶測があるということが、話題になったとのことである。このことについては、説明会はもちろん、普段の進路指導の場面で、調査書の意味合いが正しく理解されるよう、説明していく必要があると思う。今の事務局からの情報共有について、意見等いかがか。</p> <p>(意見・質問なし)</p> <p>よろしいか。では、12ページの審議3に進む。「現行入試制度における例外的な選抜のあり方」について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明感謝する。事務局より、例外的な選抜方法の調査研究が求められている背景</p>

	<p>について説明があった。また、実際に他の都道府県で実施されている特徴ある選抜方法についての情報提供があった。これらのことについて、意見、質問願う。また、何か情報をお持ちの委員がおられれば、ぜひ共有いただきたい。</p> <p>私から1つ質問したい。今回、事務局で、他の都道府県の状況について調べていただいた。この情報は、全国の中の一部ということか。それとも、ほぼすべてを調査した情報なのか。この資料には、特に人口が多い都道府県が多いように思うが、いかがか。</p>
事務局	<p>まだ調べ尽くしていない状況ではあるが、御指摘のとおり、大都市圏中心に学校の在り方が先進的な方向へと進んでおり、それに伴って入試制度も変わっていくと考えている。</p>
委員長	<p>他に意見いかがか。</p>
中山委員	<p>1つ質問させていただく。先ほど説明があったように、多様な学びに対する入試制度を色々な形で確保していくということは、今後必要な観点であろうと思う。例えば東京都や京都市の事例において、だいたいどれぐらいの生徒がこの制度を利用しているのか、事務局で押さえている情報があれば、共有いただきたい。</p>
事務局	<p>今資料を準備するので、少々お時間いただく。御質問は、志願倍率ベースと考えてよろしいか。</p>
中山委員	<p>志願倍率という形でもよろしいし、実際にそれぞれの学校がどの程度の数の子どもたちをこの選抜方法で受け入れているのか、その実数がわかると、我々もイメージがしやすいと思う。</p>
事務局	<p>(資料掲載の主な高校について、志願倍率の情報を提供)</p>
高校教育課長	<p>具体的にどのぐらいの生徒が在籍しているのか、在籍数は提示できないか。</p>
事務局	<p>今手元にある資料でお答えできる部分のみ、お示しする。 (資料掲載の一部の高校について、在籍生徒数の情報を提供)</p>
中山委員	<p>詳細に教えていただき感謝する。受け入れ側の高校という立場で考えると、大学でも総合型選抜が行われているように、こういった新たな仕組みの入試制度を、従来の入試制度とは別の形で、多様なニーズ、多様性のある子どもたちの受け入れという観点で、同時に考えていく必要があるということかと思う。非常に勉強になった。</p>
委員長	<p>発言感謝する。その他、質問や意見いかがか。</p>
河本委員	<p>全国各地に特徴的な入試制度が様々あるのだな、という感想を持ったが、先に考えなければいけないのは、入試制度というより、このような生徒を入学させた後、各学校でどのような対応を取れるかということだ。その部分が先行しなければ、入学させたはよいが対応はできない、生徒を育てられない、という状況になってしまい、かえってその入学生を失望させることにもなりかねない。やはり、どういう対応が取れるのかというところを、各学校単位ではなく、モデル校なども作りながら、こういう指導や施設が可能だという状況を作っていく、実績が必要ではないかと考える。</p> <p>確かに現在のところ、不登校の生徒が全日制普通科の高校に適應することがなかなか難しい状況がある。最近では、スポーツや芸能等の活動をする生徒が、全日制の高校を選ばず、広域通信制高校にどんどん流れているという状況もある。そのような特別な活動を行った生徒の進路選択の幅を、今の高校の形が狭めている。色々な可能性を持っている子供たちを育てる環境にはなっていないと私は思う。</p> <p>文科省から、オンラインで受けた授業の単位を36単位まで認めるという方向性が示され、パブリックコメントで様々な疑問が生じていた状況があるが、やはりその疑問について、具体的にどういう対応、どのような対処をしていくのかという方向性が何も示されないところで、制度設計だけが進んでいくということに、多くの問題があるのだと思う。このような入試制度を検討する前に、現在、進路選択の幅を狭められている生徒たちに、どのような形で対応できるかということを中心に検討していくことが、この入試制度の構築につながっていくのではないかと感じている。</p>
委員長	<p>意見に感謝する。実は私も全く同じ意見である。やはり、どういう教育体系、教育システムを作るか、そこに合致する。そのために入試制度をどうすればいいか検討するという順番ではないかという点、全くその通りかと思う。</p>

	<p>他に意見いかがか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>本日も、皆様から様々な意見をいただくことができた。審議事項3つと、非常に盛りだくさんである上、オンライン会議という形で行ったが、非常にスムーズに進めることができた。協力に感謝する。今年度の専門委員会は本日が最後となるが、今日の検討のまとめと、更なる調査等を引き続き事務局にお願いし、今後の審議につなげていきたいと思う。</p> <p>それでは、事務局から事務連絡願う。</p>
事務局	(事務局より事務連絡)
委員長	それでは、本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。
事務局	(閉会)